

宇工図書委員会

青 空

令和6年12月20日発行

今年もあとわずかとなりましたが、今年はどんな本と出会いましたか？
1年で読んだ本の冊数はどれくらいになったでしょうか？
まだまだ読書をしたい人も、今年なかなか本を読めなかった人も、
今回紹介した本の中から、今年最後の1冊を読んでみてはいかがでしょうか？

図書委員の生徒が選ぶ、おすすめの本の紹介

図書委員が自信を持って紹介するおすすめの本！ぜひ読んでみてね！

タイトル：「秒速5センチメートル」

著 者：新海 誠

「桜の花びらが落ちる速度は秒速5センチメートルなんだって」。このセリフから始まる本作は、遠野貴樹という男を軸にして描かれる、独立した三章の物語からなる本です。この本では、章が進むごとに貴樹が少年・高校・大人と変化していくのですが、その全てを通して少年時代に出会い、親の都合で離れてしまった明里という人物を思っており、明里に対しての貴樹の行動がむずがゆさに共感できます。何回読んでもおもしろい一冊です。

(建築デザイン系1年)

タイトル：「リカバリーカバヒコ」

著 者：青山 美智子

とある公園に一匹たずむピンクのカバ。通称「リカバリーカバヒコ」。そのカバには、自分が治したい部位を触ると、カバヒコが治してくれるという都市伝説があります。カバヒコには、毎日のように悩みを持っている人々がやってきます。成績不振に悩む高校生、ストレスからの不調で休職中の女性などなど…。

前とは違った自分を作ってくれる本です。気になったらぜひ読んでみてください。

(建築デザイン系1年)

タイトル：「アルジャーノンに花束を」

著 者：ダニエルキイス

32歳になっても幼児の知能しかないチャーリー。そんな彼は、最新の脳手術によって天才に変貌します。天才になったチャーリーは、できなかった読み書きもできて、言語も何々語も話せるようになりました。しかし、親に捨てられたことや周りの人にばかにされていたことも同時に理解できるようになってしまいました。そんなチャーリーの苦悩や孤独が書かれた作品です。チャーリーの気持ちがいかに痛く伝わってくる本に泣ける一冊です。

(建築デザイン系1年)

タイトル：「十角館の殺人」

著 者：綾辻 行人

この本は、奇妙な館が建つ島「角島」へ訪れる大学生七人の話です。実は、この島では、半年前に殺人事件が起きていて、今でも謎が出ると言われています。日々過ごしていくうちに、大学生らを襲う不可解な出来事や殺人事件。その犯人は意外な人物だった…。

私自身とても衝撃を受けたミステリー作品の名作です。

ぜひ読んでほしいです。

(建築デザイン系1年)